

金鷹山

若宮八幡社は、寛和元年(985)御創建以来、本年1,040年を迎えた

令和7年(2025)9月1日発行

通巻第24号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電 話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



大分県無形民俗文化財 若宮楽

社報「金鷹山」第二十四号の目次

- ◆一頁 大分県無形民俗文化財『若宮楽』の予告
大分県無形民俗文化財『御田植祭』早乙女の募集
- ◆二頁 奉斎会への入会方法 紀元祭のお知らせ
奉斎会だより
奉斎会大祭・令和七年度総会・文化講演会
奉斎会主催 常若講座のお勧め みたま祭を斎行
- ◆三頁 御創建一〇四〇年の嘉年を寿ぎ
奉斎会主催 観月祭を斎行します
新嘗祭に奉納のお勧め 七五三詣の承り
- ◆四頁 春の神事報告
(仮称) 金鷹会の発足について
神社本庁辞令 編集後記

大分県無形民俗文化財 令和8年御田植祭の 奉仕者を募集します

記

○募集内容

若宮八幡社『御田植祭』(4月)早乙女の奉仕者
・小学校6年生までの女の子
※御田植祭の奉仕者が集まりましたら、
祭典前に数回の練習会を行いますので、ご参加ください

○問合せ先

金鷹山若宮八幡社
宮司 紀田兼宣(きだ かねのぶ)
電話 0978(62)3148(若宮八幡社)

大分県無形民俗文化財 若宮楽のお知らせ

日時 9月14日(日) 午後2時

場所 若宮八幡社本殿前の齋庭^{ゆにわ}
(拝観無料・予約など不要です)

雨天時は拝殿の中で行います

この日のために関係者一同諸準備を取り進めてまいりましたので
皆様方のお越しを心よりお待ち申し上げます

奉斎会への入会方法

- ① 公式HP「金鷹山 若宮八幡社」で検索の上、『奉斎会』項目の中の『入会申込票』をダウンロードして、お名前・住所等を入力して申込み戴けます
- ② 社頭でも『入会のお勧め資料』を常時配布しております
- ③ 若宮八幡社にお電話くだされば、直接入会一式資料をお届け致します

若宮八幡社奉斎会 入会申込票

令和 年 月 日

芳名	(姓)	(名)
生年月日	大正 昭和 平成 令和 年 月 日	生まれ
会社名		
設立日	大正 昭和 平成 令和 年 月 日	設立
住所	〒 - - 都道府県 市区 番地【マンション名等】	
連絡先	電話 - - / mail @	
お届け先	☐ ご自宅 ☐ 会社 ☐ その他()	
会員種別	☐ 正会員(年会費5,000円) ☐ 家族会員(年会費2,000円)	

事務局欄	領収書	PC入力	会員証	芳名録	年会費
------	-----	------	-----	-----	-----

送信先 FAX 0978-69-7035 (宮司携帯 080-5503-3488)

紀元祭のお知らせ

日時 令和8年2月11日(水)午前11時
場所 若宮八幡社本殿に於いて
案内 関係各位には事前にご案内申し上げますが、一般の方もご参列戴けます
附記 ●玉串料は不要です(無料)
●神事に於いて、『国歌斉唱』・『聖寿万歳』・『紀元節奉唱』がありますのでお含み置き下さい
●「紀元祭」とは、初代神武天皇が奈良県の橿原に於いてご即位になられた日を寿ぐ神事です

奉斎会主催

常若講座のお勧め

3か月に一回 古事記を紐解いて参ります

奉斎会の事業の一環として年に4回(3か月に一度)開催している『常若講座』が、去る七月十八日(金)に杵築市立図書館に於いて開催されました。
今回、第4回を迎えており、日本の神話である古事記を、講師として若宮八幡社宮司 紀田兼宣先生をお招きして紐解いて参ります。
古事記は、西暦712年に編纂された日本最古の歴史

書です。上・中・下の3巻からなり、常若講座は上の巻(天地開闢から神代物語)を数か年かけて勉強しますが、現在は『国生み』と題して、伊邪那岐神と伊邪那美神のご夫婦神々が、難題を乗り越えて、九州や姫島・四国・本州などをお生みになられたことをご説明申し上げます。
次回は、第5回常若講座『神生み』を十月下旬に開催します。

奉斎会だより

奉斎会大祭の斎行と令和七年度総会を開催 総会に併せて文化講演会も行っ

【令和七年度奉斎会総会】

去る七月十八日(金)午前十一時から若宮八幡社本殿に於いて、「令和七年度若宮八幡社奉斎会大祭」が斎行されました。

当社は、遡ること寛和元年(西暦985年)に、京都男山に鎮座される石清水八幡宮から四柱の神様を勧請したことから歴史が始まりました。

その親神様である石清水八幡宮の摂社である「若宮社」の神事「若宮社祭」が七月十八日の午前十一時から斎行されることに因み、若宮社とご祭神を同じくして祀る当社も、昨年度に設立を見た「若宮八幡社奉斎会」の、年に一度の大祭を七月十八日に斎行することとしております。

当日は石清水八幡宮からの祝詞を奉奠し、奉斎会会員の参列のもと厳粛に神事が執り行われました。

上記の奉斎会大祭斎行日に近い、七月二十六日(土)に、令和七年度の「若宮八幡社奉斎会総会」が、多数の会員が出席のもと、きつき生涯学習館に於いて開催されました。
この会は、年度を七月から翌六月末としており、年度始の七月二十六日(土)に総会を開催するものであります。
総会では、令和六年度の事業報告及び決算・監査報告また令和七年度の事業計画及び予算案の審議ほかを打ち合わせて、出席者一同(欠席者は委任状出席)の了承を得て、会議は無事に終了致しました。



令和七年度奉斎会総会

【奉斎会主催 記念講演】

総会に引き続き、一般聴講者を交えて記念講演が開催されました。

講演講師として、大分縣護國神社宮司 八坂秀史先生をお迎えし、『大東亜戦争終戦八十年を卜して』と題して大分県出身の二柱の英霊の言葉を紹介戴き、また七月二十四日に開館した資料館『寄須処』の説明などによりご講演を賜り、一同熱心に拝聴致しました。



大分縣護國神社 八坂宮司によるご講演

奉斎会主催

みたま祭を斎行

杵築市出身の英霊を招霊し
全国戦没者追悼式に合わせて黙禱

今年は大東亜戦争が終結して八十年という節目の年に当たります。

今ある平和は、戦地に斃れ散華され、尊い命を捧げられた英霊のお蔭と令和に生きる現代人は感謝申し上げ、杵築市出身の英霊の御霊をお慰めすることを主旨として、去る八月十五日(金)に、若宮八幡社本殿に於いて「みたま祭」が斎行されました。

この「みたま祭」は、恒例神事として毎年八月十五日に斎行されておりましたが、本年からは、奉斎会の主催として斎行するべく総会で承認を受けて、若宮八幡社奉斎会会員は勿論のこと、広く一般の方また杵築市のご遺族各位にもご連絡申し上げ、斎行された次第にございます。

杵築市出身の英霊(山香地

区と大田地区は含みません)の『芳名 ○○○○命』と『帰幽年月日』を一枚づつ揮毫し、霊璽箱に奉安して、一、〇六一柱の御霊を、当日招霊申し上げ、食糧事情の悪い戦地に思いを馳せて、霊前には沢山のお供え物を奉奠し、多数の参列を戴きました。

祭典後は、全国戦没者追悼式に合わせて国歌斉唱、正午に黙禱、また天皇陛下のお言葉を拝聴し、祭典は厳粛に取り納められました。
霊璽簿奉安箱は、当社の本殿に奉安されておりますので、ご遺族の方は勿論、どなたでもお参り戴けます。



御創建一〇四〇年の嘉年を寿ぎ

記念事業を展開しております

若宮八幡社の歴史は、今を遡ること平安時代の寛和元年(西暦985年)に、京都の石清水八幡宮から四柱の神様を勧請申し上げ、現在の浜田社に御創建されたことに始まります。

爾来、三度の遷座(神様の引っ越し)を経て、嘉暦元年(西暦1326年)に八坂の若八幡本社から現在の金鷹山に三度目の遷座を以て今に至りました。

本年は、浜田社御創建から一、〇四〇年という嘉年を迎え、この嘉年を寿ぎ夫々の記念事業を展開しております。

前号の社報「金鷹山」第二十三号(四月一日発行)でも報告しましたが、記念事業を行なうにあたり奉賛活動は特に実施しておりませんが、左記に展開しております。

●事案① 和漢將軍社(境内の末社)

七四〇年式年大祭の斎行
：三月十七日(月・命日の旧暦二月十八日)に斎行済み。

●事案②
照月八幡社(飛地境内地)改修工事
：篤志者の寄進により竣功。

●事案③
境内マップの作製
：作製しました。公式HPからマップがご覧いただけます。

●事案④
浜田社の鳥居改修
：当社の御創建の元宮(浜田社)の鳥居を改修致します。

●事案⑤
文化財調査に着手
：来年(西暦2026年)は、三度目の鎮座地「若八幡本社」から現在の「金鷹山」へ、嘉暦元年(西暦1326年)に遷座してより、七〇〇年の嘉年であることにより若八幡本社で所蔵される「棟札」を調査していきます。

：来年(西暦2026年)は、三度目の鎮座地「若八幡本社」から現在の「金鷹山」へ、嘉暦元年(西暦1326年)に遷座してより、七〇〇年の嘉年であることにより若八幡本社で所蔵される「棟札」を調査していきます。



浜田社



若八幡本社



奉斎会主催「観月祭」を

十月四日(土)に斎行します

奉斎会主催の「観月祭」を行なうべく、雅楽また浦安の舞の研鑽に、紀田宮司をはじめ受講生が励んで参りました。本年は、中学校一年生の双子のお嬢様が浦安の舞習得を希望されましたので、紀田宮司が今夏に福岡県神社庁に出向し、3日間舞の講習を受けて参りました。

受講生の月に2回の研鑽により、一所懸命に奉納しますので、皆様のお越しを心よりお待ちしております。



秋の観月祭

●奉斎会主催「観月祭」
●日時 十月四日(土)
●午後五時から凡そ一時間
●場所 若宮八幡社本殿
●曲目
○神楽「浦安の舞」
：舞姫による奉仕
○黄鐘調 音取
○黄鐘調 海青楽
○太食調 抜頭

※無料ですが、事前のお申し込みをお願いいたします
TEL 0978(62)3148

新嘗祭に お供え物を 奉納しませんか?

記

◇神事◇

新嘗祭(にいなめさい)
秋の収穫に感謝申し上げる神事です

◇奉納◇

お米・野菜・果物・その他承ります

◇締切◇

11月23日(日・勤労感謝の日)まで承ります

◇対応◇

奉納者の芳名を社報「金鷹山第26号」
(令和8年4月1日刊行)でご報告致します



七五三詣 祈願申し込みを承ります

記

- ◆日程 年末まで承ります
- ◆祈願料 5,000円也
- ◆お下がり お名前を揮毫した
神札・お守り・千歳飴ほか

- ◆祈願
※毎日午前9時～午後5時までの承り
※上記時間内で30分ごと
※貴家だけの祈願です
(完全入れ替え制です)
※一緒に諸祈願もお申し込み戴けます
※予約制ですので事前のお申し込みをお願いします
- ◆その他 11月23日(日・勤労感謝の日)の午前は『新嘗祭』が斎行されますので、午後のみ承ります





祈年祭後 退任総代に記念品の贈呈

春の神事報告 四月六日(日)祈年祭(春季大祭)を斎行

午後には大分県無形民俗文化財『御田植祭』が復興奉納される

《御田植祭復興への歩み》

感染症の対策を講ずるために永らく奉納が中止されていた大分県無形民俗文化財『御田植祭』は、感染症の終息に伴い、再び奉納戴く旨を保存会に打診しておりましたが、地元中津屋区の諸事情により引き続き中止の状況が継続しておりました。

このことを受けて、地元の中津屋区のみで奉納することが困難であるとの申し入れにより、杵築市文化財窓口に相談しながら、若宮八幡社をはじめ、関係行政区、近隣小学校及び有識者による『御田植祭復興委員会』を組織編成し、昨年より審議会と、早乙女ほかの練習会を経て、去る四月六日(日)に六年ぶりに奉納が為されました。

以降につきましても、この復興委員会を中心に運営されることとなりますので、氏子崇敬者の皆様には、何卒ご理解を戴きますようお願い申し上げます。

尚、早乙女については引き続き募集しますので、どうぞ気軽にお申し込み下さい。



6年ぶりに復興した御田植祭

《祈年祭の斎行と御田植祭》

四月六日(日)神事の当日。午前十一時から本殿に於いて、秋の稔り多きことを神様にお願ひ申し上げる「祈年祭(春季大祭)」が斎行されました。

神事に於いて、紀田宮司による祝詞奏上の後、熊野に伝わる年田神楽による舞姫さんの神楽舞奉納が行われ、午後からの御田植祭が、「御田植祭復興委員会」により新たに準備が行われた経緯を神様に報告申し上げました。

また併せて、多年に亘り神社総代をご奉仕になられました五名の元総代の退任と、新たに五名の新総代の就任とを報告し、退任者には感謝の記念品を贈呈、就任者には委嘱状の交付が行われました。

退任された元総代さんにおかれましては、多年に亘りご奉仕を賜りましたことに感謝申し上げますと共に、引き続き若宮八幡社の運営にご協力を戴きますようお願い申し上げます。

(仮称)杏鷹会の発足について

和漢將軍(木付親重公)を顕彰する組織を充足します

3頁で、本年の御創建一〇四〇年の計画案を記載致しましたがその中で

●事案① 和漢將軍社(境内の末社)

七四〇年式年大祭の斎行として、毎年命日である旧暦の二月十八日に命日祭を斎行しており、本年は三月十七日(月)に斎行した旨、ご報告を致しました。

これを受けて、十年後の令和十七年度に御創建一〇五〇年を迎えるに合わせ、和漢將軍社七五〇年式年大祭を斎行致し度存じ上げます。

辞令 報告

若宮八幡社禰宜に任ずる
令和七年六月一日
神社本廳

編集後記 紀田宮司のつぶやき

逆転しない正義……とは

1番 何のために生まれて何をして生きるのか 答えられないなんて そんなのは嫌だ…… 2番 何が君の幸せ 何をして喜ぶ わからないまま終わる そんなのは嫌だ……

これは、やなせたかし先生の漫画「アンパンマン」マーチの冒頭の歌詞である。▼NHKの朝ドラ「あんぱん」も九月に入り愈々佳境になってきた。▼右のマーチは永らく耳にしていたのだが、朝ドラを見るにつけて、その歌詞の意味が改めて胸に染みてきます。▼やなせ先生の大東亜戦争での経験が、礎となつて後の人生を大きく左右してきたのであろう。▼朝ドラの中で度々出てくる言葉に、「逆転しない正義」というセリフがある。▼戦前に正義とされてきたことが、終戦とともに逆転し、今までの価値観がガラツと反転した。▼ドラマの中で、実弟が戦地に赴く際に、初めて己が心の真意を兄である主人公に吐露して出征し、骨壺に板一枚の位牌となつて帰ってきた場面は見ていて辛かった。▼令和の現代においても、「逆転しない正義」というテーマは永遠の問いである。▼政治や国際問題をはじめ、生活全般に亘るまで、いったい何が正義で、それが正義ではないのか?と自問する日々である。▼本年は大東亜戦争が終結してより八十年の年であると同時に、日清戦争終結より百二十年、日露戦争終結より百二十年の年でもある。▼長きにわたり諸外国と戦を交え、たくさん尊い命が失われ、その犠牲の上に今ある平和に感謝を申し上げなければ、英霊から叱咤されてしまうのではないか。▼去る七月二十六日に、当社の奉斎会主催の文化講演会を開催し、大分縣護國神社の八坂秀史宮司を講師に迎え、「大東亜戦争終結八十年を卜して」と題するご講演を拝聴した。▼講師のお言葉で、『果たして戦地に斃れ散華された英霊は、現代の様相を迎えるために尊い命を捧げられたのか?令和の現代を高天の原からご覧になって、どう思われているのか?』との問いに、逡巡してしまう自分が情けない。▼老いを迎える日々であるが、自分の心の中で『是が正義だ!』と決めたことは、誰が何を言おうと最期まで逆転することなく、生涯貫いていきたいと痛感致しました。

その為、(仮称)『杏鷹会』を組織し活動してまいります。名称の由来としては、木付氏の家紋である「杏葉」(ぎょうよう)と、金鷹山の「鷹」をもとに考案しました。

当面の間は、年に一度の命日祭を斎行することを主たる目的としますが、十年かけて七五〇年式年大祭への諸準備を取り進めてまいりますので、参画戴ける方の募集を広く行います。

特に木付家の末裔の方や、木付氏の歴史に興味のある方には、当方からお声掛けをさせて頂きたく思います。

長男 兼齋は五月三十一日付で福岡県福津市宮司元町鎮座の宮地嶽神社を退任し、この度若宮八幡社を本務とする禰宜職の拝命を賜りましたので、茲にご報告申し上げますと共に、宮司共々ご指導を戴きますようお願い申し上げます